



(商学部・商学科 履修モデルの説明)

【2年次・4 Semester以降、卒業まで】

- ▼1年次・2 Semesterで中国への留学を経験した後、2年次・3 Semesterにおいて、グローバルビジネスの理論と実務能力を習得するために、アジア地域に関連する科目を専門関連科目の中から勉強します。
- ▼2年次・4 Semesterに商学科を志望し許可となった以降は、専門科目A群で商学研究の基礎を固めていきます。
- ▼商学科の専門科目は、基盤科目のA群、発展科目のB群、応用科目のC群に分けて配置されており、基礎から応用までをスムーズに学習できるシステムとしています。
- ▼卒業後は、海外とくにアジア地域に事業展開している会社に就職したいと考えているため、2年次・4 Semesterの専門ゼミナール(コマース研究ゼミナール I)では、国際経営をテーマとするゼミナールを選択します。
- ▼必修科目のコンピュータ・リテラシーの勉強を基礎として、APQ科目の情報管理論を選択し、MOS検定の資格取得を目指します。
- ▼中国語はHSK検定の上級レベル取得のためPAL(専門職中国語)でいっそうのトレーニングを続けます。
- ▼3年次に進むと貿易関連の実務能力を高める必要性を感じ、通商実務論で貿易実務検定取得を目指します。
- ▼4年間で異文化コミュニケーション能力が向上し、商学のオールラウンドな知識が身に付き、情報処理技能と貿易実務の資格を取得することにより、希望する就職先の企業が多様な分野に可能性を広げることが可能になります。